

Q1 おもしろかった記事はどれですか。1つ選んでください。

- 公園の楽しみを広げるアートをつくらう(P04-05)
- 五感を使って、建物の歴史をじっくり感じよう(P06-07)
- 堀江武史さんインタビュー(P08)
- 二子玉川へ行こう(P09)
- ユニバーサルデザインを学ぶUDゼミ開催(P10)
- ユニバーサルデザインを広げています(P11)

Q2 ユニバーサルデザインを広げていくための世田谷区の実践の中でどの取組みが効果的だと思いますか？ 3つまで

- 1 冊子「世田谷UDスタイル」の発行
- 2 区民向けのワークショップの開催(P02~P09参照)
- 3 区民の学習の場づくり(P10参照)
- 4 UDアドバイザーや障害当事者ととも案内板のバージョンアップ(P11参照)
- 5 いろんなところで出張講座(P11参照)
- 6 区職員の研修(P11参照)
- 7 改修助成(裏表紙)
- 8 そのほか(具体的な施策事業名) (ホームページに記載されている施策事業をご記入ください)

Q3 ユニバーサルデザインを広げていくためのお考えやアイデアがありましたらお教えてください。(自由記述)

Q4 そのほかのご意見がありましたらお教えてください。(自由記述)

次号は、「まちでゆるやかにスポーツ(仮)」を特集する予定です。記事になりそうな地域の取組みがあればお教えてください。



## ご意見をお聞かせください。

「世田谷UDスタイル」第2号はいかがでしたか？ 皆様のご意見を活かして、より魅力的なユニバーサルデザインのまちづくりを進めていくため、アンケートにご協力ください。回答は上のはがきにご記入ください。ご返信いただいた方、全員に素敵なプレゼントをお送りします。(プレゼントの内容は裏面をごらんください)

※アンケートはがきをお送りいただいた方には、都市デザイン課で行うイベント等のご案内をお送りする場合があります。

※ご記入いただきました個人情報は、プレゼントの発送や都市デザイン課からのご案内以外で使用いたしません。

※プレゼントの応募締切は平成28年4月28日(必着)です。

## 1 UDアドバイザーや障害当事者ととも案内板のバージョンアップ

二子玉川ライズの案内板は、利用しやすい触知案内板となるように、ユニバーサルデザインアドバイザーと視覚障害者が関わって検証をし、工夫してもらったものです。視覚障害者だけでなく、誰もが使えるような案内板となるよう、高さや見やすさ、案内内容などを検討しました。



## 2 いろんなところで出張講座

小学校、大学、街づくり協議会など、様々な場面へ区の職員がお伺いしてユニバーサルデザインの出張講座を実施しています。社会福祉協議会等との団体とも連携して、ニーズに合わせた講座をいたします。



# ユニバーサルデザインを広げています

平成27年度の  
世田谷区の実践紹介

## 3 区職員の研修

区の職員の資質向上のため、ユニバーサルデザインを学ぶ職員研修を開催しました。明治学院大学非常勤講師の半田こづえ先生とともに、郷土資料館にある昔の生活用具をアイマスクをして触る体験型の研修でした。

触感から「モノ」を捉えることで、研修生は自分自身の感性を広げながら、お互いに生活用具の魅力を共有しました。視覚にとられない観賞方法を学ぶとともに、合理的配慮の意味も学びました。



無料で使用  
できます!

手話の  
勉強会の  
チラシに



### 「せたち」のキャラクターを使ってみませんか?

ユニバーサルデザインの普及啓発に関することであれば、どなたでもお使いいただけます。使用できるキャラクターはホームページからご覧ください。「せたち」の形をあしらったまんじゅうやクッキーなど、商品やグッズを通した普及啓発をしてみませんか? ご使用の際は、事前の申請手続きをお願いします。

ユニバーサルデザイン  
普及啓発キャラクター  
「せたち」のご紹介

オスのサルで、身長90cm程度。ユニバーサルデザインという言葉の「サル」の発音にかけて、おさるさんのキャラクターとして誕生。UDの普及啓発を一生懸命しています。

高店街イベントや  
子ども向けイベントの  
キャラクターグッズに

LINEの  
スタンプに

その他の取組み等、詳しくは世田谷区のホームページをご覧ください。

世田谷区 ユニバーサルデザイン 検索

# ユニバーサルデザインを学ぶ UDゼミ開催

第1回

9/15

火  
tue



## UDまちづくりを考える

東洋大学ライフデザイン学部教授 川内美彦先生

前半の講義では、「障害」観(社会モデル)の考え方や、2016年4月に施行される「障害者差別解消法」の「合理的配慮」についてお話がありました。また、国際パラリンピック委員会のアクセシビリティガイドの内容を日本のバリアフリー法と比較し、考え方の違いについてお話をいただきました。

後半の全体でのディスカッションでは、日本は障害者権利条約を批准しているのにも

関わらず、バリアフリー法では人権が尊重されていない。なぜ変えられないのか? という疑問が参加者から出されました。これは、日本の社会全体が問題意識を持っていないことが背景にあると指摘されました。



第2回

10/22

木  
thu



## 視覚障害者がいきいきとするUDの工夫

明治学院大学非常勤講師 半田こづえ先生

前半の講義では、視覚障害者の日常生活や、視覚障害のある子どもたちとの体験型ワークショップについてお話をいただきました。アメリカのフィラデルフィア美術館でインターンをしていた時のお話では、視覚障害者向けに、午前中は美術鑑賞、午後は作品の制作をするなど、全ての人々が美術を楽しむことができるように様々な試みがなされていることを紹介していただきました。

後半は、参加者が各々の生活と結びつけて考

えを深められるよう、3つの班に分かれて、「もっとみんなが情報を得られる選挙活動のアイデア」をテーマにディスカッションを行いました。選挙カーの大きな音での呼びかけは、視覚障害者は交差点を横断する時、車の走行音や歩行者の足音を手掛かりに信号を判断しているため、「選挙カーは交差点付近では音を出さない」といったアイデアが出てきました。



第3回

12/2

水  
wed



## 音のない世界から考えるUD

内閣府障害者政策委員会委員 松森果林先生

前半の講義では聞こえない立場から「聞こえる人が中心の社会」「テレビ番組やCMの字幕」「情報格差」「まちの中のバリア」「子育て、地域との繋がり」などについてお話いただきました。また、誰もが楽しめる東京ディズニーリゾートの工夫として、「手話キャスト」「指さしコミュニケーションブック」「字幕表示システム」などについて紹介していただきました。

後半のディスカッションでは、「手話」という言語のほか、字幕でテレビを見ている参加者から「字幕は聞こえない人だけでなく、みんなに便利なものではないか?」「ニュースや大河ドラマで難しい言葉が出てきた時に字幕で確認できるので便利だ」など、様々なコミュニケーションについて意見交換をしました。

